

コースのあらまし 江戸時代に剣豪の里として栄えた柳生から、南北朝時代に合戦の場となった笠置の史跡を巡り再び柳生へ戻る周遊コースである。
スタート地から南北朝時代に南朝方砦となった古城山へ、まず一気に登る。剣塚のあたりは桜とワラビの群生地、シーズンはさぞや……。尾根伝いに北上してから下山し東海自然歩道に行くことになる。笠置寺へ近づくにつれ桜や雑木が増え、春や秋の紅葉シーズンは目を奪う彩りとなる。

笠置寺でゆっくり史跡めぐりをしたあとは笠置の町を抜けて木津川べりに出る。ここから布目踏切まで、眼下に悠々たる木津川の流れ、右手にJR線を仰ぎ見ながら歩く。発電所で木津川本流と別れ、支流の布目川渓谷をさかのぼる。「京都の自然200選」に選ばれただけあって植物相が豊かな遊歩道。野鳥の声や葉づれ音に耳を澄ませながらゴールまで平坦な道をあと一息。

柳生の里 「まっぷ②」で少し紹介している十兵衛杉が古城山(標高314m)の真西に。のどかな山村風景が展開している。
阿対石仏 流行病に霊験ある阿弥陀如来と子授けに信の篤い地藏菩薩の二体からなる。鎌倉から室町期にかけての磨崖仏。

笠置寺 奈良時代は弥勒信仰、平安時代は山岳修験道、そして南北朝時代は南朝のそれぞれ拠り所となった。木津川べりにそびえる独立峰・笠置山の地形をうまく利用し、磨崖仏や行場の巨岩・奇岩が次から次へ。桜や紅葉にも恵まれた古くからの景勝地。

木津川 源流は遠く三重県の鈴鹿山麓や奈良県の曾爾・室生方面にあり、笠置山の北でおおらかな流れを見せる。京都府八幡市で淀川と合流し大阪湾へと長い旅路をたどる。古代交易の重要な役割をになった。『万葉集』では泉川と呼ぶ。



企画・発行—近畿日本鉄道株
制作・印刷—株式会社メディアアート
イラストマップ—アートエス 瀬川俊朗
※無断転写禁ず。

●約12キロ(柳生バス停～古城山～笠置寺～布目川～柳生バス停)

柳生・笠置周遊コース

- コース内の神社仏閣、施設等には、有料の箇所があります。
- 地図内の数字は、起点からの実距離(メートル)を表わしています。

このコース地図は2009年3月1日調査に基づいて作成しています。風水害、天変地異等によりコース変更が生じることがありますので、事前にお問い合わせください。
当コースのお問い合わせ=近鉄大板イベント係
☎(06)5775-3566

- 大阪難波駅から近鉄奈良駅まで約35分
 - 京都駅から近鉄奈良駅まで約40分
 - 近鉄名古屋駅から近鉄奈良駅まで特急約2時間30分(大和西大寺駅まで特急利用、大和八木駅・大和西大寺駅のりかえ)
 - バス 近鉄奈良駅から柳生まで約50分
- ※バス便が少ないため要確認
●バス時刻のお問い合わせ
奈良交通テレフォンセンター ☎(0742) 20-3100

- ハイキングのエチケット
- *ゴミはまとめて持ち帰りましょう。
 - *山火事防止のためタバコに注意しましょう。
 - *大切な自然です。植物の採集はつしめましょう。

